

仁淀川水系河川整備計画の推進（国による抜本的な治水対策の推進）

高知県

戦後最大洪水(昭和38年8月)に気候変動を加味(降雨量を1.1倍)した洪水が発生した場合の浸水区域図

仁淀川水系では、気候変動の影響による河川流量の増加に対応した整備に向けた準備が令和6年度までに完了

- 流域治水プロジェクト2.0 策定(令和5年8月)
- 河川整備計画 変更(令和6年9月)



河川整備計画に基づく対策実施後の浸水区域図

対策効果

- 浸水面積：約3,400ha → 約10ha
- 浸水世帯：約10,400世帯 → 0世帯
- 被害額：約5,520億円 → 約1億円

凡例

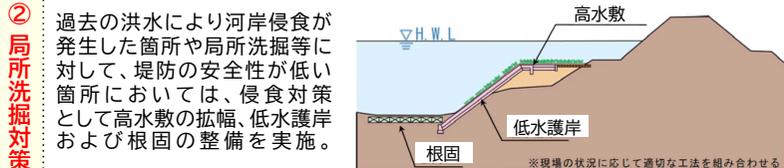
浸水した場合に想定される水深(ランク別)

20.0m以上
10.0m~20.0m
5.0m~10.0m
3.0m~5.0m
1.0m~3.0m
0.5m~1.0m
0.3m~0.5m
0.3m未満

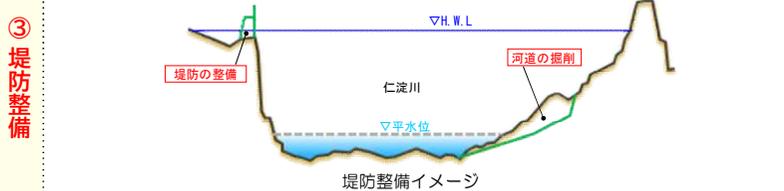


河川整備計画に基づく主な整備メニュー(直轄事業)

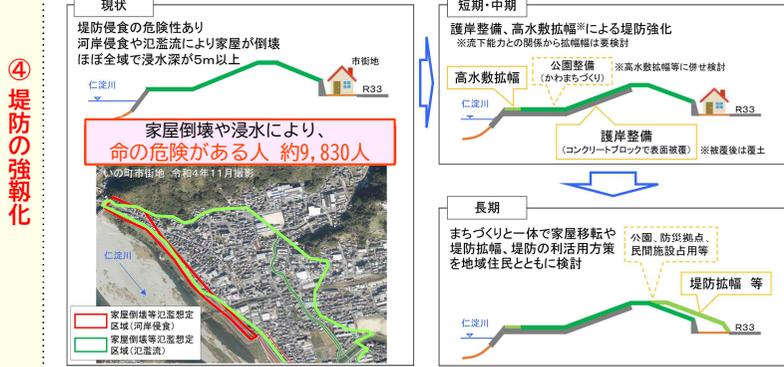
土佐市用石地区等の土砂が堆積し、樹木が生い茂っている箇所では、土砂の除去や樹木の伐採を行い、洪水時の水位を低下させ浸水被害を軽減。



堤防高が低い箇所では、堤防高上げを行うことで流下能力を向上させる。



いの町中心市街地は、破堤氾濫した場合に命の危険がある人が1万人近く存在しており、安全に逃げる対策等を引き続き強化するとともに、護岸整備と高水敷拡幅、まちづくりと一体の堤防拡幅等による『堤防の強靱化』を進める



政策提言

- 近年、気候変動の影響により、毎年のように全国各地で豪雨災害が激甚化・頻発化していることから、今後は、気候変動の影響を加味した洪水を安全に流下させる対策が必要です。
- 仁淀川の下流域では、本川の洪水時水位より低い平野部に主要な市街地が形成されており、堤防が決壊した場合、多くの住民が命の危険にさらされることから、洪水時の本川水位を低下させる河道掘削や、いの町市街地を守る堤防の強靱化など、本川の治水対策の推進及び適切な河川の維持管理が重要です。
- 増大する豪雨災害の脅威に備え、河道掘削や堤防の強靱化などを加速化するための重点的な予算配分をお願いします。